

# 「輝け11 しまね町村フェスティバル」(第6回)について

H29.5.15 実行委員会事務局

## 1. 企画概要

- 趣旨 県内11町村の伝統文化・芸能、また豊かな海の幸、山の幸を紹介することにより、これまで培ってきた島根の原風景「まち・むら」の魅力・輝きを情報発信
- 主催 島根県町村会及び島根県町村議会議長会並びにTSK(実行委員会)
  - \*共催 島根県 \*後援 山陰中央新報社
  - \*協力 島根経済同友会・島根県環境保健公社・山陰合同銀行・千里
  - \*特別参加 日本赤十字社島根県支部・島根県共同募金会・島根県緑化推進委員会・島根県森林協会・水土里ネット島根・しまね自然と環境財団・しまね国際センター・島根県国民健康保険団体連合会・熊本震災応援隊
- 日時 平成28年10月1日(土曜)及び2日(日曜)の2日間
- 会場 松江市向島町 TSK山陰中央テレビ新社屋特設会場
- 主な事業内容
  - ・地域の伝統文化、芸能等の紹介
  - ・地域の特産品の紹介、実演、販売促進
  - ・観光、定住促進に向けた情報発信

## 2. 開催概要

### 1) 来場者数 2万6千人

- ・松江市向島町の会場で、3年ぶりの開催。向島町開催での来場者数は、これまでの最高(H23:11,000人→H24:18,000人→H25:19,000人→(H26・H27 県庁前庭開催)→H28:26,000人)となった。ただ、県庁前庭開催のH27:29,000人には若干及ばなかった。  
天候に恵まれた2日(日)は、一日としての過去最高15,000人の来場を記録した。  
この要因としては、次の点が挙げられる。
  - ① イベントとしての認知度が向上し、秋の風物詩として定着してきたこと。
    - ・開催時期の固定化 ・テレビなどによる効果的な広報
  - ② ゆるキャラ集合などにより、家族連れが年次増加していること。
  - ③ TSKのジャンケン大会などの企画が若い層の来場につながり効果的だったこと。
- ・1日目の1日(土曜日)は、前夜来の大雨で天候が懸念されたためか朝の出足が鈍く、その後も時折小雨が降るなど天気にも恵まれず、各ブースに恒例の行列ができるほどの人手にはならなかった。夕方にかけて天気が回復したものの、近年ではやや少ない一日となった。来場者11,000人。
- ・2日目の2日(日曜日)は、朝から好天気に恵まれ、昨日の状況が一変し、来場者が途切れることなく続いた。午前中は「ゆるキャラ集合」や「大ジャンケン大会」などの効果により家族連れが多く見られ、一時会場内が渋滞した。昼過ぎあたりから完売ブースも出始め、15時頃まで来場者が続いた。来場者15,000人。
- ・これまでのような大型企画はなかったものの、引き続き実施した「しまねっこ」などゆるキャラ集合や大ジャンケン大会などは、多くの若い家族連れの来場が見られるなど、テレビによる広報効果と相まって、効果的な企画となっている。

### 2) ステージ関係

- ・メインステージでは、県内各地域の神楽や、本場隠岐の民謡、力強い太鼓、伝統的な踊り、また会場全体を利用した踊りなど、様々な伝統文化などが披露された。
- ・これまでになく多くの観覧者で賑わった演目も多く、着実に伝統文化への支持が広がっている。

### 3) 物産ブース関係

- ・県内各地域の海の幸、山の幸の出展があり、特に、試食、実演を行うブースが増加傾向にある。また、ここ近年の来場者数の伸びを背景に、提供数量を増やすブースも多く見られた。
- ・来場者の多寡に物産関係の売り上げが影響される傾向にあった。2日目は売り上げも大きく伸び完売するブースも多く見られた。